平成26年８月12日

各　位

会 社 名　星 光 Ｐ Ｍ Ｃ 株 式 会 社
代表者名　代 表 取 締 役 社 長　滝 沢　智
（コード番号　4963　東証一部）
問合せ先　専務取締役管理本部長　伊佐木　融
（TEL. 03－6202－7331）

（訂正）平成26年12月期第２四半期決算短信〔日本基準〕（連結）の一部訂正について

平成26年８月６日に発表いたしました「平成26年12月期第２四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の内容につきまして、下記の通り訂正させて頂きます。

なお、訂正個所には下線を付しております。また、数値データについては、訂正はありません。

記

１．訂正箇所（詳細別紙）

＜９頁＞
３．四半期連結財務諸表
（４）四半期連結財務諸表に関する注記事項
（減損損失に関する注記）

２．追加箇所（詳細別紙）

＜１１頁＞
３．四半期連結財務諸表
（４）四半期連結財務諸表に関する注記事項
（企業結合等に関する注記）

以上

別紙

１．訂正箇所

＜９頁＞
（訂正前）

（４）四半期連結財務諸表に関する注記事項
（継続企業の前提に関する注記）
該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）
該当事項はありません。
（セグメント情報等）
Ⅰ　前第２四半期連結累計期間（自　平成25年４月１日　至　平成25年９月30日）
１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	製紙用薬品事業	印刷インキ用・記録材料用樹脂事業	合計	調整額（注）	四半期連結損益計算書計上額
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	7,529,417	3,086,878	10,616,295	－	10,616,295
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	21,417	69,164	90,581	△90,581	－
計	7,550,834	3,156,042	10,706,877	△90,581	10,616,295
セグメント利益	546,100	98,860	644,960	△127,540	517,419

（注）１．売上高の調整額△90,581千円は、セグメント間取引消去であります。
２．セグメント利益の調整額△127,540千円は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない研究開発費であります。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
（固定資産に係る重要な減損損失）
重要性がないため記載を省略しております。

（のれんの金額の重要な変動）
該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）
該当事項はありません。

（訂正後）

（４）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（減損損失に関する注記）

当第２四半期連結累計期間において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類
中国	製紙用薬品製造設備等	建物及び構築物、機械装置及び運搬具等

当社グループは、事業用資産について、継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分を基礎としてグルーピングを行い、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

事業用資産のうち収益性の低下した固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。その内訳は下記の通りであります。

建物及び構築物	191,598千円
機械装置及び運搬具	460,880千円
その他	46,929千円
計	699,407千円

なお、事業用資産の回収可能価額は使用価値により測定しており、回収可能価額を零として算定しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

Ⅰ　前第２四半期連結累計期間（自　平成25年４月１日　至　平成25年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	製紙用薬品事業	印刷インキ用・記録材料用樹脂事業	合計	調整額（注）	四半期連結損益計算書計上額
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	7,529,417	3,086,878	10,616,295	－	10,616,295
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	21,417	69,164	90,581	△90,581	－
計	7,550,834	3,156,042	10,706,877	△90,581	10,616,295
セグメント利益	546,100	98,860	644,960	△127,540	517,419

（注）１．売上高の調整額△90,581千円は、セグメント間取引消去であります。

２．セグメント利益の調整額△127,540千円は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない研究開発費であります。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

重要性がないため記載を省略しております。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

別紙

２．追加箇所

＜１１頁＞

（企業結合等に関する注記）

取得による企業結合

当社は、平成25年11月29日開催の取締役会において、興人フィルム＆ケミカルズ株式会社の化成品事業を会社分割により承継するＫＪケミカルズ株式会社の発行済株式の90％を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡に関する契約を締結し、平成26年４月１日に同社の株式を取得いたしました。

(1) 企業結合の概要

①被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称　　ＫＪケミカルズ株式会社

事業の内容　　合成樹脂、化学工業薬品及びその関連製品の製造、加工及び販売

②企業結合を行った主な理由

独自の合成技術を活かして様々な機能性モノマーを開発している被取得企業を買収することにより製紙用薬品、印刷インキ用・記録材料用樹脂事業に続く新たな事業軸を獲得し事業基盤の強化を図り、加えて同企業が有するモノマーの開発技術と当社のポリマー合成技術を融合させることで、新たな製品・用途の開発や新規事業の立ち上げを加速することであります。

③企業結合日

平成26年４月１日

④企業結合の法的形式

株式の取得

⑤結合後企業の名称

ＫＪケミカルズ株式会社

⑥取得した議決権比率

発行株式数の90％

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したためであります。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成26年４月１日から平成26年６月30日まで

(3) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	1,350,000千円
取得に直接要した費用	アドバイザリー費用等	45,880千円
取得原価		1,395,880千円

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間又は負ののれん発生益の金額及び発生原因

①負ののれん発生益の金額

370,790千円

②発生原因

企業結合時の時価純資産額が取得原価を上回ったため、その差額を負ののれん発生益として計上しております。